
待っていて

Nilgiri

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
待っていて

【Nコード】
N5602D

【作者名】
Nillgiri

【あらすじ】
少女は一人の少年と出会った・・・少年は少女に問う『どこへ行くのかと・・・』

どれだけこの道を歩き続けてきたのだろうか？

どれだけこの道を歩き続けるのだろうか？

信じているから・・・

信じているから・・・

この先にきつとあなたがいると。

この先の・・・天国という名の町であなたに出会えると。

母さんなんて大嫌いだ

父さんも・・・みんなこの世から消えてしまえばいい・・・

灼熱という言葉が似合う日の午後、一人の少女が見渡す限りの砂漠を歩いていった。草木一本も見えない景色が実際の暑さより暑く感じさせている。風でも吹いていれば少しぐらいは気がまぎれるのだが、それすらない。それでもただひたすら歩き続けていた。道は少女が歩き続けるこのひとつだけのようなのである。すでに2時間は過ぎただろうか。それでも足取りは始めから変わることなく、しつかりとしていた。

大嫌い・・・大嫌い・・・大嫌い・・・

呪文を唱え続けるかのようにこの言葉だけをその少女はつぶやき続けていた。この言葉だけが現実世界と自分をつなげる唯一の言葉のように感じていたが、もう一方で、この言葉を忘れてしまえば楽になれるのではとも。

それにしても

40分ほど前からだろうか、少女は誰かが自分の後をついてきているのを感じていた。少女がゆつくり歩くと向こうもペースを落とすゆつくりと歩く。小走りしてみても同じだった。最初は気にはしていなかった。むしろ、

変質者かな？それなら、私を殺すのかな？

そんな空想めいたことばかりを考えていた。未だ疲れを感じていないのも、この空想のおかげでもあった。しかしその状況は少女が後ろを見たために少し変わってしまった。

子供・・・

少女と同じくらいの少年だった。つけてきていたのが自分と同じくらいの少年だと分かった瞬間、自分の空想はやはり空想でしかなかったのだという落胆をおぼえてしまった。それと同時に祖父のことを思い出した。

「・・・は・・・にいるよ。わしもそこにもうすぐ行こうと思って
いるがの。」

「るなは？るなも行きたいよ。じいとさ・・・といっしょにいるの。」

少女　るな　はその時のじいの不思議な顔を思い出していた。それは悲しんでいるのか喜んでいるのか、るなには分からなかったから不思議な顔という印象だけが記憶の中に残っていたのである。

でも、どうして・・・

気づくとるなは歩くのをやめていた。るなには今自分がどうして疑問を持ったのか分からなかった。それよりも、どんな疑問を持ったのかさえ分からなくなってしまったのである。疑問という言葉が浮かんではむなく漆黒の闇の中に消えていく感覚。るなに分かるのはその闇は自分の中にあることだけで、どんなにその闇を覗き込んでも何も見えないし、浮かんでくる気配さえしなかった。どれくらいの間るなは闇を覗き込んでいたのだろうか、すでに日が傾いていた。止めていた足を一步踏み出した時、後ろの気配をもう一度確認した。そう、少年もるなと同じように立ち止まっていたのだった。

「ついてこないでくれる？」

少年からは何の返事もない。

聞こえていない？

「ついてこないでくれる？わたしはすぐく遠いところへ行くの。あなたと遊んでる暇なんてないのよ、坊や。」

自分と同じくらいの少年に対して適した言い方ではないだろう。でもなぜか、るなにはこれが大人で目標を持って歩く自分と、ただ自分についてくる少年との距離を表すいい表現だと思っていた。

「どっいくの？」

しっかりとした声がるなの後ろから返ってきた。後ろを見ずに気

配だけを感じていたるなにとってそのしつかりとした声は意外だった。るなは振り向き初めて少年の顔を正面から見た。

ガキ

正面から見たところで、るなの中にあつた自分のほうが上であるという印象は変わらなかった。はつきり見たことで、その少年が現実存在しているのだと再確認したに過ぎなかった。それでも、しつかりとるなをとらえる視線だけは彼女に少年が空想の産物ではと思わせてもいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5602d/>

待っていて

2011年1月8日15時24分発行